

まえがき

度に影響され、適正な温度条件ではいずれの滞留時間でも95%以上の脱亜鉛率が得られることがわかった。

今回の実験結果より、RHFでの脱亜鉛率、脱鉛率が高

そこで、中間出銑中も酸素ブローや炭材、DRI の投入

3. 石炭溶解プロセスの将来展開

3.1 RHF および溶解実験の評価

FASTMELT プロセスは、RHF + 溶解炉の組合せが特徴である。今回のパイロットプラント実験では、RHF で鉄鉱石以外に様々なダストの造粒・還元処理技術を確認したほか、高VM 炭および高結晶水鉱石の処理技術に関する知見を得た。

また、溶解炉では還元鉄溶解速度の拡大、連続吹錬など固定式溶解炉の基本コンセプトを確認した。FASTMELT 法では還元鉄の還元率が高く、また RHF で製造した還元鉄を高温のまま使用することにより、溶解炉では高い生産能力が期待できる。

3.2 今後の展開に関する基本的な考え方